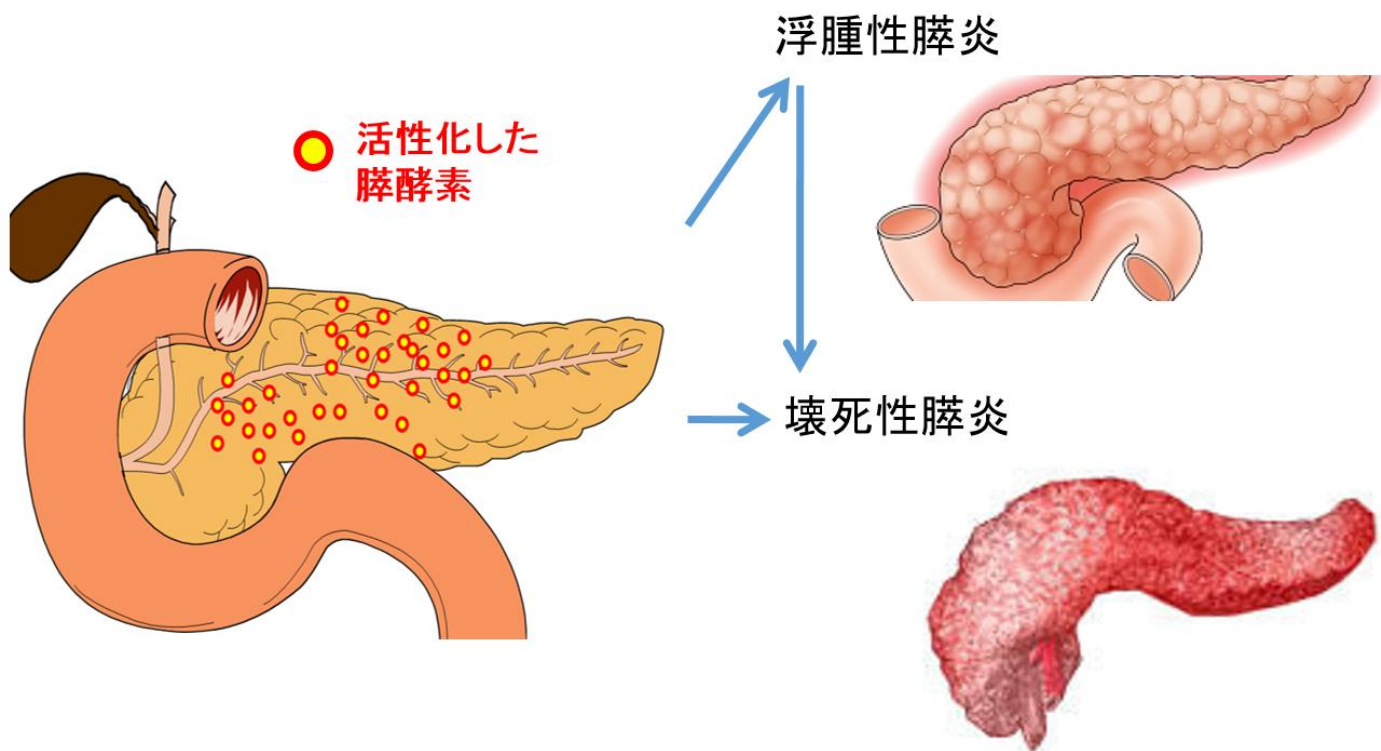


急性膵炎について

膵臓は、食べ物を消化するためのいろいろな酵素を分泌しています。急性膵炎は、**活性化された膵酵素(すいこうそ)**によって自分の膵臓が消化されてしまい、膵臓から全身の主要な臓器へ炎症が波及する病気です。

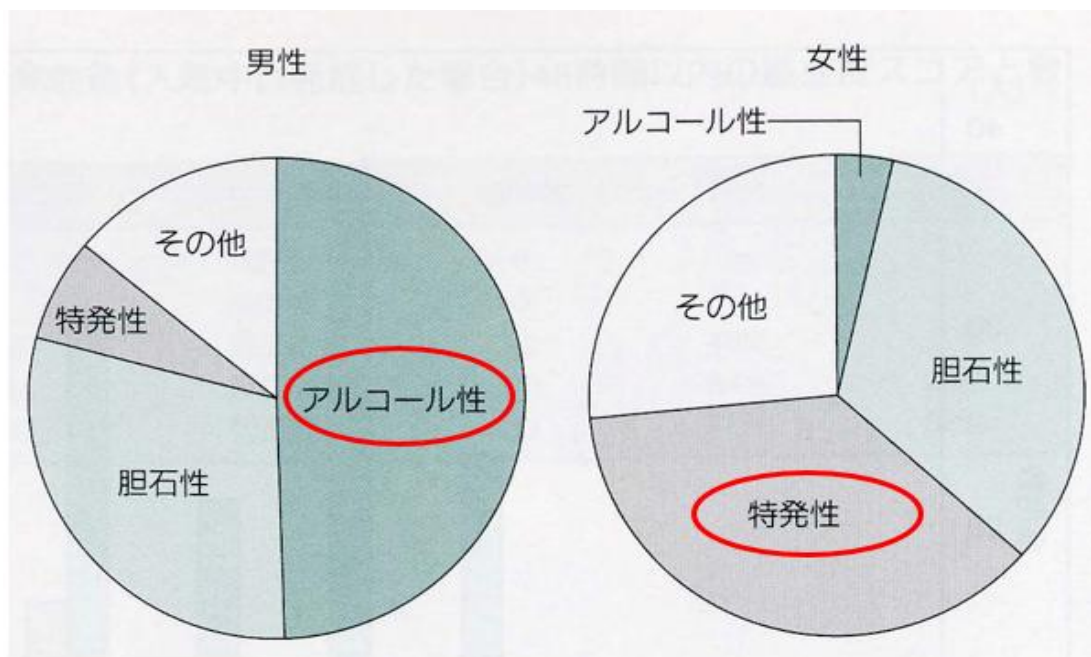


軽症から死に至る重症（重症急性膵炎）まで、さまざまなケースがあります。死亡率は約9%に及ぶことから、早期の適切な診断と治療が必要な病気です。



急性膵炎の原因は何か

急性膵炎の原因として最も多いのは、**男性**では**アルコール**、**女性**では**原因不明の特発性**です。胆石や特殊な薬剤、血液中の中性脂肪が高い場合にも発症します。

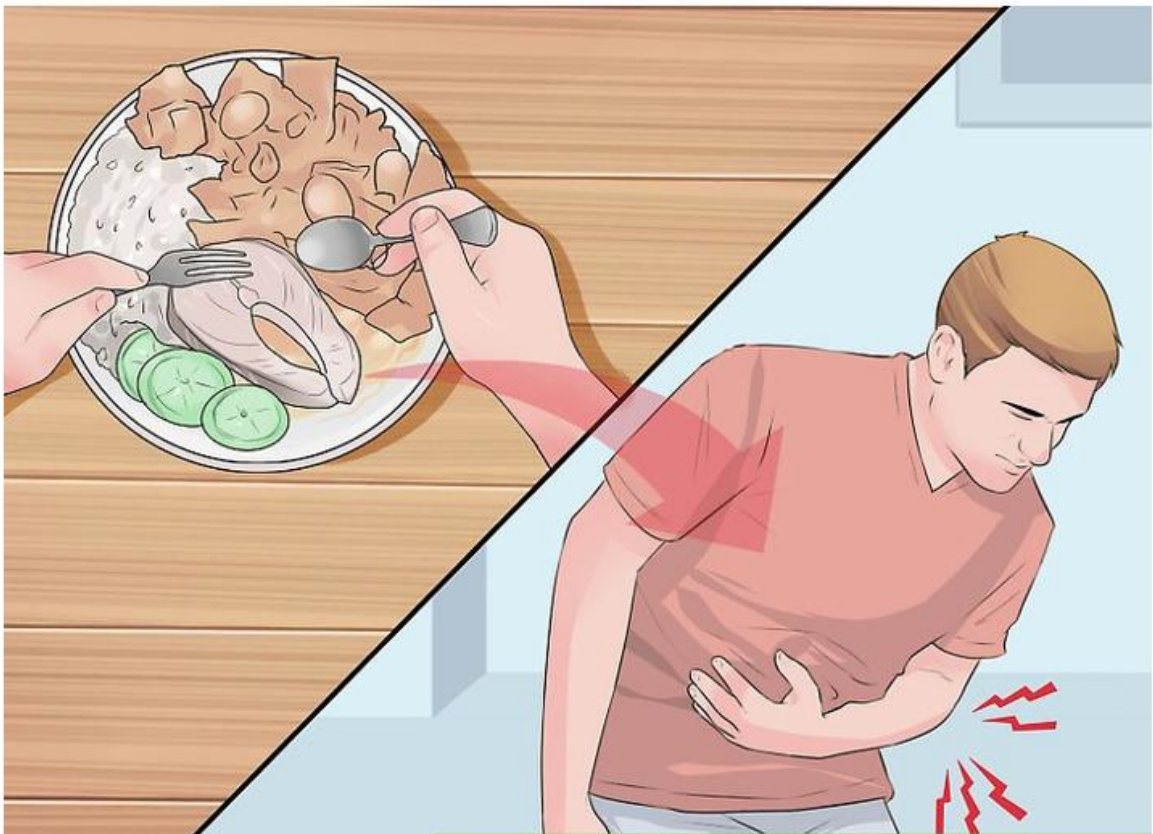


急性膵炎の症状の現れ方

急性膵炎で最も多い症状は上腹部痛です。痛みの場所はみぞおちから左上腹部で、しばしば背部にも広がります。痛みの程度は軽い鈍痛から、じっとしてられないほどの激痛までさまざまです。



何の前触れもなく痛みが起こることもありますが、食事後、とくに油分の多い食事をしたあとや、アルコールを多く飲んだあとに起こることも少なくありません。痛みは、膝を曲げて腹ばいになると和らぐことがあります（胸膝位(きょうしつゐ)）。



そのほかの症状としては吐き気、嘔吐、腹部膨満感(ふくふぼうまんかん)、食欲不振、発熱などがあります。次第に症状が悪化して、意識障害やショック状態(蒼白、血圧低下など)を起こすこともあります(重症化)。



急性膵炎に気づいたらどうする

診断が遅れると**生命に関わる**ことがあるので、上腹部から左側にかけて強い腹痛や背部痛が突然起こった時には、消化器科を受診することをすすめます。

